

設を利用しているのがほとんどで関東地方では平日あれば見ることが出来る。時間があれば掛け持ちで見たり、近くの景色を楽しんだり写真やスケッチも出来る。ただ会員同志の交流や支部間の往来は少ないように感じた。当番の支部会員の方は知らない同志の感があった。せっかく支部展を開催するのだから、もっと交流することが必要だと思う。

埼玉西支部彩り展 支部長 千木良宣行

支部員の力作で、まあまあ展覧会になったが、目に付いた弱点は「絵を創る」意識の欠如。絵は二次元平面上、自分の思いを表現して作るもので、モチーフをただ上手く書き写すものではない。新人のIさんの「森の朝」水彩F4号は、上手く描いてやろう、コケ脅して驚かしてやろうなどの、イヤ味やケレン味がなく、画面から作者の感動が静かに伝わってくる。Iさんは最近支部にきた方で、何枚も描いていないから作品は種拙だ。が、描き手に深い感動があつて、よい作品になった。美術ジャーナル誌の記事に、「俳句はこの深さを表現するもので、上手い語句の使い方ではない」とあつた。語句は学問で得られるし、師匠につけば教えてくれる。しかし、心や感性はいくら学問しても、いい師匠についても得られない。上手い絵ではなく、作者の心が感じられる、心の通う作品が、目の肥えた銀座雀たちの足を止めるのだ。世界の美術のメッカ銀座で、ほぼ毎日会場において私は、それを痛感した。

第八回さきたま支部展 支部長 住佐美紗子

一月二十二日、先週の大雪に懲りて、皆雪の予報にヒヤヒヤしていたが夜中に雨が降ったきり雪にはならずホッとした。そんな搬入当日でした。今回から日本画の倉持政江さんが参加して下さり、画材も様々、描き方も色々、個性的な人達が年に一度出品する会となった。三月か四月の梅や桜の時期に開催したかったが申し込み多数で外れてしまい、キャンセルの出た一月開催となりました。よい気候の時は他の会も沢山開催される分けて、すいている時期の方がいいかなと思う事にした。初日は十二時にオープンし、一番乗りのお客様は鈴

木健夫先生の親戚の方二人連れ、熱心に見て下さった。帰りに氷川神社にお参りしていくとのこと。今は初詣の年始と大宮公園の桜や梅の時期の中間で比較的静かだ。

今回の支部展の準備で最も気にしたのは観客の動員ということ。案内状も個人的に沢山発送して、手渡しでも会う人ごとにしつこく渡すようにした。他の支部展を観ても、作品や展示はかなりレベルが上のようにも観客は意外に少ないのではないかと、その点が気に掛かることだった。

他の支部あてに案内状を依頼しても全員に渡っているのかと思ってしまう。案内状のことに心が薄いのだ。新日美という会を充実、発展させるのにも支部の活動を活発にして、支部から中央に向けて発信していきたいと思う。一般の応募者を増やすことも支部の活動にかかっているし、美術の愛好家も増やしたい。支部の活発化によって新日美の発展を目指したい。

広島支部近況 支部長 前原専二

広島支部展を昨年同様、県東部の天満屋福山店で五月七日(火)～十二日(日)に開催する。

七月上旬には、府中市の「備後芸術の館、来夢来人」の一階展示場で第四回新日美五人展を予定している。「備後芸術の館」の理念は、備後には優秀な芸術家が沢山いるにも拘わらず知らない者が多い。それを世の人々に知ってもらい共に文化の興隆を計る」と経営者は言っている。

会場を無料で提供し、案内状まで出してくれる。東日本大震災のチャリティ展では売り上げの一部を被災者に寄贈したり、年末チャリティ展では売り上げの一部を府中市の中学、高校生の絵画部に油絵道具を寄贈するとしている。支部としても絵描き減少に歯止めが掛つたらと協力していきたい、心の豊かさを与えて行きたいと思っている。

古希雑感 神内 巍

昨年十月、七十歳の古希を迎えた。古希とは杜甫の詩「曲江」の「酒債は尋常、行く処にあり、人生七十古来稀なり」の一文に由来するとのこと。私も既にそんな年齢になったのかと、感慨深いものがあった。

私には十余年来、師と仰ぐ先生がおられる、既に百五歳という奇跡的な高齢であるにも拘わらず、風景画家として奥技を極めるべく日々取り組んでおられる。そのような元

気な姿を見るにつけ、私の年齢など、まだまだこの先三十年は頑張れるのではないかと、そう考えると、たいていのことは出来る、いやむしろ出来ないこと何もない、と思えてくる。

絵とは、それを見る人に元気を与えるもの、またある時は安らぎと安心感を与えるものであると思う。いつの日か素晴らしい、そのような作品作りを目指して、精進していかなければと考えている。

平成二五年新しい年が始まった。古希を迎えて、人生の第二章だ、健康第一で元氣溼潤と、全てにチャレンジ、人生を謳歌し、そして楽しみたいものだと思う。

支部展予告

- 神奈川支部展 2013-4-2(火)～7(日)
川崎市 アートガーデン川崎
連絡先: 鈴木忠義 045-832-0504
- 広島支部展 2013-5-7(火)～12(日)
福山市 天満屋ギャラリー
連絡先 前原専二 847-45-7063
- 多摩支部展 2013-5-8(水)～14(火)
東京 立川駅前南口大通り ギャラリー一新(1F)
連絡先: 田沢博 090-231-4715
- 埼玉東支部展 2013-5-8(水)～12(日)
春日部市中央公民館 ギャラリー(2F)
連絡先: 北條三郎 048-734-2073

スケッチ会の実施報告と次回予定

事業部 一柳 幸

鎌倉さんざが池 2012-11-16(金)

鎌倉さんざが池(別名鎌倉湖)は山に囲まれた静かな池である。深山の派手な紅葉と異なり落ち着いた淑女のような気品にも似た黄葉が、秋の緑の中に存在感を見せていた。「残り鴨 水尾ひく池の 静まれる」といった一景もかいま見えて、写生の筆の悠々と動く一日だった。帰路例によって例のごとく、大船の観音食堂で絵画談義に花が咲いたのは言うまでもない。



次回予定

当日7時の天気予報で降水確率50%を超える場合は中止します。

- 神田明神 2013-1-23(水)
神田明神入口鳥居下 10時集合
- 銀座歩行者天国 2013-2-17(日)
銀座和光前 11時30分集合
この日は歩行者天国になる時刻が12時のため集合時間を変えました。
- 国会庭園 2013-3-13(水)
国会庭園憲政会館レストラン前 10時集合

築地本願寺 2012-12-14(金)

天気晴朗風もなく、いい日和のスケッチだった。それにつけても、この建物はすごく難しい。しかも逆光ときているから発想を変えなければと思ったが凡夫の愚脳では如何とも無しがたしである。しかし乍ら、さすが大寺、内陣の偉容は素晴らしい。「日短か 香煙読経奉る」と深く頭を垂れた。本堂右袖の蕎麦屋の般若湯は冷えた体を暖めてくれる恵みの一献でありました。